

社外取締役から見たSBIグループ



優秀な人材の確保、海外事業のモニタリングをさらに強化

SBIグループの事業はグローバルに急拡大しており、今後はより一層競争力の源泉となる優秀な人材の確保や海外事業に対するモニタリングを強化していくことが求められます。独立社外取締役としては、社員・株主をはじめとするステークホルダーの皆様の代弁者として、他の社外役員と連携してより良い企業にするべく誠心、誠意務めてまいります。一方、現時点においてSBIグループの企業価値は実態が評価されているとは思えません。特に人類の将来に対して大きな夢と希望を与える可能性があるバイオ関連事業についてはもっと分かりやすく説明し皆様へ理解、納得していただく努力が必要であると考えています。

社外取締役 永野 紀吉



若い役員や幹部社員に思い切って仕事を任せる企業風土

私は他の上場会社でも社外取締役をしています。SBIグループにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴を考えると、役員や社員の平均年齢が若いことが挙げられます。外部から見ると、北尾社長が強いリーダーシップを発揮し、グループ全体を引っ張っているイメージが強いかもしれませんが、北尾社長は若い役員や幹部社員に思い切って仕事を任せています。また北尾社長は取締役会の中で今後の方向性について毎回非常に詳細な話をし、一方、全ての議案について説明している訳ではなく、案件ごとに担当役員一人ひとりから詳細な説明がなされており、それも他社と比べて特徴的な点です。

社外取締役 渡邊 啓司



透明性の高い経営態勢の確立へ

2016年3月期は、取締役会での議論がさらに活発になった1年でした。それは新たに設置された「社外取締役連絡会」等を通じ、これまで以上に社内外の役員同士がコーポレート・ガバナンスの観点から自由闊達に、議案一つひとつに突っ込んだ意見交換を行ったからだ実感しています。また、戦略面の意思決定や実行段階への落とし込みに申し分ないスピード感を発揮するなど、移り変わりの激しい事業環境の中で非常に強い武器を有し、この強みを活かしながら事業機会を先取るSBIグループの活動を社外取締役として応援しながら、透明性の高い経営態勢の確立という観点で牽制機能を果たしていけたらと思います。

社外取締役 玉木 昭宏



日々進化するSBIグループのコーポレート・ガバナンス

大規模な方向転換に時間がかかる長い歴史を持つ大企業の場合と比較すると、SBIグループのコーポレート・ガバナンスは機動的に機能しているとともに、日々進化していると思います。今後は、SBIグループの業務範囲がますます広がりワールドワイドになっていくことから、社外取締役である私も、より一層勉強しなければなりませんし、海外に対しても一段と視野を広げていかなくてはなりません。まずは、私の得意分野である金融とダイバーシティについて取締役会等で意見を述べるなど、持続的な進化、100年、1000年と続く永続企業という目標達成に向けて貢献したいと思います。

社外取締役 丸物 正直



新しい価値を創造し続けるSBIグループの変化適応力

SBIグループは時代を先読みし、変化をいち早く取り入れ、テクノロジーを最大限に活用しながら、新しい顧客価値を創造し続けており、その積極的な事業活動を支えるための高い戦略性、創造力、自己革新を続ける組織風土がいずれも揃った企業グループであると考えています。ここ数年、世界中で新しいFinTech関連技術が次々と生まれました。そのような中、FinTechファンドやSBI FinTechコンソーシアムを立ち上げるなど、社会の変化や未来動向に対して、スピード感をもって対応しており、時代の変化に対して積極的に仕掛けていくSBIグループの変化適応力を目の当たりにしています。

社外取締役 佐藤 輝英



企業価値の向上を目指し、経営課題に対する議論を充実

18名からなる取締役会のうち社外取締役は8名と44%を占めており、多様かつ広い見地から経営の監督を行う上で適切な役員構成となっていると思います。私たち社外取締役は中長期的な企業価値の向上を図っていくという共通認識の下、異なるバックグラウンドとそれぞれの専門分野に基づき一人ひとりが違った立場や観点から活発に発言し、経営陣に対して率直に意見を述べています。そして、現在赤字事業体であるバイオ関連事業の将来展望などに関しては、取締役会等において引き続き、重要な経営課題の一つとしてさらなる議論を重ねていきたいと思っています。

社外取締役 ワイズマン 廣田 綾子



創業からのDNAを浸透できるかが成長発展の鍵

SBIグループのリスク管理体制は、現状十分に整備されかつ前進していますが、金融・投資ビジネスの生命線はリスク管理にあると言っても過言ではなく、攻守にわたる管理体制の充実・向上の必要性は止まることはありません。取締役会においては、成長と収益に浸ることなく、グループ各社の情報を的確かつ迅速に共有できるよう一層円滑なコミュニケーションの強化に努めています。加えて、株主に対する分配の在り方等についても常に真剣に議論を重ねています。創業者であり明日を切り拓く北尾社長のDNAを、経営陣始め全社員がいかにかに受け継ぎ、さらに浸透させていくかが、今後の成長発展の鍵を握っていると思います。

社外取締役 佐竹 康峰



企業価値の長期的な向上へ

これまで日本企業においてはコーポレート・ガバナンスへの対応が欧米に比べ遅れていました。昨今ではコーポレート・ガバナンス強化に向けての進展がみられますが、日本企業がこれからの時代を戦い抜くためには不断の改革が必要です。一方、積極的な事業展開で高い成長性を有するSBIグループは、風通しのよい社風でコーポレート・ガバナンスやリスク管理へ前向きな対応を重ねています。北尾社長の強いリーダーシップの下、今後さらに強固な経営体制を築いていく中であって、私としては変化を先取りできる情報を提供するなど、企業価値の長期的な向上に役立ちたいと考えています。

社外取締役 竹中 平蔵